

## 国道 194 号寒風山道路

高知市と愛媛県西条市を結ぶ国道 194 号では、高知と愛媛の県境付近に旧寒風山トンネルが昭和 39 年に開通しましたが、急峻な地形のため大型車両の通行が困難で、冬期には積雪や路面凍結のため通行止めが生じていました。そこで計画されたのが寒風山道路（延長 6,400m）でした。長大トンネルを建設することによって地すべりや落石災害の危険を回避するとともに、所要時間を短縮し、冬期の積雪による影響などを解消して、太平洋側と瀬戸内側の交流をより円滑にするためのものでした。

この路線は高知・愛媛の両県で管理されていましたが、地形、地質ともに厳しい条件を伴い、工事の規模も大きいため、建設省が直轄施工することになりました。昭和 47 年度に調査を開始し、昭和 53 年度に事業化、昭和 56 年度に愛媛県側で工事用道路の建設に着手しました。寒風山トンネルの工事は、当初、第 1 期、第 2 期に分けて 2 つのトンネルを建設するように設計されていましたが、昭和 57 年 10 月に工事現場を埋め尽くす大規模な地すべりが発生して、工事は振り出しに戻ることを余儀なくされました。

このため、専門家で構成する交通安全調査委員会が現場を調査し、設計の見直しを行い、愛媛県側坑口を西に移動させ、延長 5,432m のトンネル一本で高知県本川村（現いの町）と西条市を結ぶことになりました。昭和 61 年度に工事用道路の工事を再開し、昭和 63 年 10 月に寒風山トンネルを起工、愛媛県側から掘削を始めました。本坑に先立ち、地質や湧水を確認する作業坑を掘削しました。工事は全国でも例のない最大 900m にもなる土被りの長大トンネルでさまざまな断層、ひび割れ、水漏れと闘う難工事となりましたが、最新の技術で乗り越え、平成 6 年 10 月に作業坑が貫通しました。さらに平成 8 年 11 月には本坑が貫通し、当初の計画から 27 年を経た平成 11 年 4 月に寒風山道路が全線開通しました。

寒風山地区の旧道の延長は約 21km で所要時間は約 50 分を要していましたが、寒風山道路の完成によって所要時間が約 10 分に短縮されました。また、寒風山道路の標高は旧道に比べて約 400m～600m 低いため、冬期の雪や凍結による通行止めがほとんどなくなり、年間を通じて安心して走行できるようになりました。

なお、愛媛・高知県境にそびえる標高 1,765m の寒風山は、現地では「さむかぜやま」と呼ぶが、道路関係者が「かんふうざん」と読み慣わしたということが、西条市誌に記されています。

<参考文献：建設省四国地方建設局土佐国道工事事務所編「寒風山道路—一般国道 194 号—」1999 年、国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所編「土佐国道事務所 40 年のあゆみ」2003 年、久門範政編「西条市誌」1966 年など>



寒風山トンネル  
(高知県側)



寒風山トンネル  
(愛媛県側)



(地理院地図に加筆)